

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3988954号

(P3988954)

(45) 発行日 平成19年10月10日(2007.10.10)

(24) 登録日 平成19年7月27日(2007.7.27)

(51) Int.Cl. F I
A 4 1 D 19/00 (2006.01) A 4 1 D 19/00 J
A 4 1 D 19/01 (2006.01) A 4 1 D 19/01

請求項の数 4 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2007-514191 (P2007-514191)	(73) 特許権者	306000603
(86) (22) 出願日	平成19年1月18日(2007.1.18)		金 成光
(86) 国際出願番号	PCT/JP2007/050719		奈良県橿原市八木町3丁目3の31
(87) 国際公開番号	W02007/083712	(74) 代理人	100075502
(87) 国際公開日	平成19年7月26日(2007.7.26)		弁理士 倉内 義朗
審査請求日	平成19年4月6日(2007.4.6)	(72) 発明者	金 成光
(31) 優先権主張番号	特願2006-11099 (P2006-11099)		奈良県橿原市八木町3丁目3の31
(32) 優先日	平成18年1月19日(2006.1.19)		
(33) 優先権主張国	日本国(JP)	審査官	米村 耕一
早期審査対象出願		(56) 参考文献	実開昭63-034115(JP, U) 登録実用新案第3116713(JP, U)
		(58) 調査した分野(Int.Cl., DB名)	A41D 19/00-19/04

(54) 【発明の名称】 手袋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

1 個又は複数個のカイロを収容するカイロ収容部を手袋本体の内部に備え、この手袋本体に差し入れられた手の指先部分を前記カイロ収容部内のカイロにより温める手袋であって、

前記手袋本体は、

手の出し入れのための基端開口部と、

この基端開口部に連なり、前記手の掌及び甲を被覆する掌被覆部と、

この掌被覆部に連なり、前記手の親指を被覆する親指被覆部と、

前記掌被覆部に連なり、前記手の人指し指、中指、薬指、及び小指の4本の指を一纏めに被覆する四指被覆部と、

この四指被覆部の先端縁部に形成された先端開口部と、

この先端開口部を開閉する開閉手段と、

を備え、

前記カイロ収容部は、

前記カイロの出し入れのためのカイロ挿入口を有し、前記四指被覆部内であって前記4本の指が差し入れられた際にこれらの指の指先部分が存する部位に配置されるとともに前記カイロ挿入口が前記四指被覆部の先端開口部に配置され、前記カイロ挿入口が前記開閉手段により前記先端開口部とともに開閉され、

さらに、前記カイロ収容部の外面と前記四指被覆部の爪側の内面との間、及び、前記カ 20

イロ収容部の外面と前記四指被覆部の指の腹側の内面との間にそれぞれ前記指先部分の挿入を許容する空間が確保された手袋。

【請求項 2】

複数のカイロを収容するカイロ収容部を手袋本体の内部に備え、この手袋本体内に差し入れられた手の指先部分を前記カイロ収容部内のカイロにより温める手袋であって、

前記手袋本体は、

手の出し入れのための基端開口部と、

この基端開口部に連なり、前記手の掌及び甲を被覆する掌被覆部と、

この掌被覆部に連なり、前記手の親指を被覆する親指被覆部と、

前記掌被覆部に連なり、前記手の人指し指、中指、薬指、及び小指の 4 本の指を一纏めに被覆する四指被覆部と、

この四指被覆部の先端縁部に形成された先端開口部と、

この先端開口部を開閉する開閉手段と、

を備え、

前記カイロ収容部は、

前記カイロの出し入れのためのカイロ挿入口を有し、前記四指被覆部内であって前記 4 本の指が差し入れられた際にこれらの指の指先部分が存する部位に配置されるとともに前記カイロ挿入口が前記四指被覆部の先端開口部に配置され、前記カイロ挿入口が前記開閉手段により前記先端開口部とともに開閉され、且つ、

2 個のカイロを個々に収容する第 1 室と第 2 室とを備え、これら第 1 室及び第 2 室は、それぞれ、前記四指被覆部内において爪側の内面及び指の腹側の内面の両面に向かう方向に揺動可能に設けられ、

前記第 1 室と前記四指被覆部の爪側の内面との間、前記第 1 室と第 2 室との間、及び前記第 2 室と前記四指被覆部の指の腹側の内面との間のいずれかに前記指先部分の挿入を許容する空間が選択的に確保された手袋。

【請求項 3】

前記開閉手段が、ファスナである請求項 1 又は 2 に記載の手袋。

【請求項 4】

前記開閉手段が、面ファスナである請求項 1 又は 2 に記載の手袋。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内部にカイロを収容できるようにした手袋に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種の手袋としては、手袋に手を入れた場合に掌に対応する部分や手の甲に対応する部分に使い捨てカイロを収容することができる収容部を設けたものが提供されている。この従来の手袋は、手袋を装着した際に収容部に収容したカイロによって手を温めたり温かい状態で維持するようにするものであった（例えば、特許文献 1 参照。）。

【特許文献 1】 実開昭 62-97119 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

ところで、例えばゴルフやバスケットボールなど手を使うスポーツにおいては、プレーする上で指先の感覚が非常に重要であり、冬場などに指先が冷えて感覚が十分でない状態でプレーすると、当該プレーに悪影響を及ぼすことになる。特に、ゴルフなど屋外でするスポーツでは指先が冷えないように十分に注意する必要がある。

【0004】

しかしながら、上記従来の手袋では、内部にカイロを収容することによって掌や手の甲の部分を温めることができるものの、カイロがない部分の指先までは温めることができな

10

20

30

40

50

かった。

【0005】

本発明は、上記問題点に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、指先を良好に温めることができ、しかも、指先に対応した手袋の先端部にカイロを簡単に収容することができる手袋を提供することにある。

【0006】

また本発明は、指先の冷え具合などの状況に応じて指の腹側及び爪側のいずれか一方又はその両方を選択的に温めることのできる手袋を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記の目的を達成するため、請求項1の発明に係る手袋は、1個又は複数個のカイロを収容するカイロ収容部を手袋本体の内部に備え、この手袋本体内に差し入れられた手の指先部分を前記カイロ収容部内のカイロにより温める手袋である。

【0008】

手袋本体は、手の出し入れのための基端開口部と、この基端開口部に連なり、前記手の掌及び甲を被覆する掌被覆部と、この掌被覆部に連なり、前記手の親指を被覆する親指被覆部と、前記掌被覆部に連なり、前記手の人指し指、中指、薬指、及び小指の4本の指を一纏めに被覆する四指被覆部と、この四指被覆部の先端縁部に形成された先端開口部と、この先端開口部を開閉する開閉手段と、を備えている。

【0009】

一方、前記カイロ収容部は、カイロの出し入れのためのカイロ挿入口を有し、前記四指被覆部内であって4本の指が差し入れられた際にこれらの指の指先部分が存する部位に配置されるとともにカイロ挿入口が四指被覆部の先端開口部に配置されている。そして、カイロ挿入口が前記開閉手段により四指被覆部の先端縁部における先端開口部とともに開閉される。

【0010】

さらに、上記の手袋においては、カイロ収容部の外面と四指被覆部の爪側の内面との間、及び、カイロ収容部の外面と四指被覆部の指の腹側の内面との間にそれぞれ指先部分の挿入を許容する空間が確保された構成としている。

【0011】

本発明の手袋は上記の構成であるから、指先を良好に温めることができる。したがって、厳寒下でも指先の感覚を良好な状態で維持することができる。また、開閉手段を開放することによってカイロ収容部が四指被覆部の先端縁部における先端開口部を通じて開放されるので、本手袋をはめたままであっても、この先端開口部を通じてカイロを容易に差し入れすることができる。

【0012】

また、指先部分を上記した2つの空間のうち、いずれか一方の空間に選択的に差し入れることができるので、指先部分の表裏、つまり爪側と腹側のうち、優先的に温めたい方を直接カイロ収容部の外面に当てることができる。

【0013】

また、請求項2の発明に係る手袋においては、カイロ収容部は、2個のカイロを個々に収容する第1室と第2室とを備えたものとする。そして、これら第1室及び第2室は、それぞれ、四指被覆部内において爪側の内面及び指の腹側の内面の両面に向かう方向に揺動可能に設けられて、第1室と四指被覆部の爪側の内面との間、第1室と第2室との間、及び第2室と四指被覆部の指の腹側の内面との間のいずれかに指先部分の挿入を許容する空間が選択的に確保された構成としてもよい。

【0014】

この場合、指先部分を上記した3つの空間のうち、いずれか一つの空間に選択的に差し入れることができるので、指先部分の表裏のうちいずれか優先的に温めたい方を第1室又は第2室の外面に当てて温めることも、また、指先部分を第1室と第2室とで挟持し、指

10

20

30

40

50

先部分全体を温めることもできる。

【0015】

また、上記の手袋においては、前記開閉手段が、ファスナであっても或いは面ファスナであってもよい。

【0016】

この場合、四指被覆部の先端開口部の開閉が簡単なものとなり、本手袋をはめたままでももう片方の手で先端開口部の開閉を行うことができる。

【0017】

尚、本発明において、カイロとは、例えば、不織布や紙の袋に空気中で酸化発熱する鉄粉を入れた、いわゆる使い捨てカイロや、プラチナの触媒作用を利用して気化したベンジン 10
をゆっくりと酸化発熱させる、いわゆる白金触媒式カイロなど、現在市場において広く出回り、入手が容易なものであって、カイロ収容部に収容可能な形態のものとされる。

【発明の効果】

【0018】

本発明の手袋によれば、指先を良好に温めることができ、指先の感覚を良好な状態で維持することができる。また、開閉手段を開放することによって収容部が先端を通じて開放され、この先端開口を通じてカイロを容易に出し入れすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。 20

【0020】

図1は、本発明の手袋1を示している。

【0021】

この手袋1の手袋本体11は、手の出し入れのための基端開口部12と、この基端開口部12に連なり、手の掌及び甲を被覆する掌被覆部15と、この掌被覆部15に連なり、手の親指を被覆する親指被覆部13と、掌被覆部15に連なり、手の人指し指、中指、薬指、及び小指の4本の指を一纏めに被覆する四指被覆部14とを備えた、いわゆるミトンタイプの手袋である。この手袋本体11は、保温性に優れた素材で作製されており、必要に応じて防水性も確保するようにして後述するカイロによる保温効果を十分に発揮できるようにしている。 30

【0022】

上記四指被覆部14には、図2に示すようにその先端から途中部に亘ってカイロ収容部2が内蔵されている。このカイロ収容部2は、使い捨てカイロ等の保温具を収容するように袋状に形成されており、カイロの温もりが指先に伝わり易いように、例えばメッシュの生地を用いて作製されている。

【0023】

このカイロ収容部2は、四指被覆部14の先端縁部14aとともに開閉自在に構成されている。具体的には、カイロ収容部2にはカイロ挿入口2aが形成される一方、四指被覆部14の先端縁部14aには当該先端縁部14aに沿って所定長さの先端開口部14bが形成されており、この先端開口部14bに沿ってカイロ挿入口2aの開口縁が、例えば縫着され、これら両者の開口（カイロ挿入口2a及び先端開口部14b）が、開閉手段としてのファスナ3によって一緒に開閉されるように構成している。従って、図3に示すように、ファスナ3を開放することによってカイロ収容部2のカイロ挿入口2aが先端開口部14bを通じて開放され、この先端開口部14bを通じてカイロAを容易に出し入れすることができる。 40

【0024】

このようにして手袋1を構成することで、例えばゴルフにおいて移動中にプレイヤーが本発明の手袋1に手を入れておくことで指先を良好に温めることができ、指先の感覚を良好な状態で維持することができる。すなわち、図4に示すように、この実施の形態の手袋1においては、カイロ収容部2の外面と四指被覆部14の爪側の内面14cとの間、及び 50

、カイロ収容部 2 の外面と四指被覆部 1 4 の指の腹側の内面 1 4 d との間にそれぞれ指先部分 F の挿入を許容する空間 S 1 , S 2 が確保されている。従って、指先部分 F をこれら 2 つの空間 S 1 , S 2 のうち、いずれか一方の空間 S 1 (S 2) に選択的に差し入れることができるので、指先部分 F の表裏、つまり爪側と腹側のうち、優先的に温めたい方を直接カイロ収容部 2 の外面に当てることができる。

【0025】

上記の実施の形態にあっては、カイロ収容部 2 は一室構造であって 1 個のカイロ A を収納するものであるが、本発明はこれに限定されず、例えば、図 5 に示すような構成であってもよい。

【0026】

10

すなわち、図 5 に示す手袋においては、カイロ収容部 2 は、2 個のカイロ A 1 , A 2 を個々に収容する第 1 室 2 5 と第 2 室 2 6 とを備えたものとし、これら第 1 室 2 5 及び第 2 室 2 6 は、それぞれ、四指被覆部 1 4 内において爪側の内面 1 4 c 及び指の腹側の内面 1 4 d の両面 1 4 c , 1 4 d に向かう方向に揺動可能に設けられている。第 1 室 2 5 と四指被覆部 1 4 の爪側の内面 1 4 c との間、第 1 室 2 5 と第 2 室 2 6 との間、及び第 2 室 2 6 と四指被覆部 1 4 の指の腹側の内面 1 4 d との間のいずれかに指先部分 F の挿入を許容する空間 S 5 , S 6 , S 7 が選択的に確保された構成とされている。

【0027】

この場合、指先部分 F を上記した 3 つの空間 S 5 , S 6 , S 7 のうち、いずれか一つの空間に選択的に差し入れることができるので、指先部分の表裏のうちいずれか優先的に温めたい方を第 1 室 2 5 又は第 2 室 2 6 の外面に当てて温めることも、また、指先部分 F を第 1 室 2 5 と第 2 室 2 6 とで挟持し、指先部分 F 全体を温めることもできる。

20

【0028】

また、上記の手袋においては、開閉手段をファスナ 1 3 としているが、これ以外に、例えば面ファスナを採用してもよい。

【0029】

開閉手段をファスナ 1 3 又は面ファスナとした場合、四指被覆部 1 4 の先端開口部 1 4 b の開閉が簡単なものとなり、本手袋 1 をはめたままでももう片方の手で先端開口部 1 4 の開閉を行うことができる。

【0030】

30

なお、上述した実施形態は、あくまでも本発明の好適な実施態様を示すものであって、本発明はこれに限定されることなく、その範囲内において種々設計変更可能である。

【0031】

例えば、開閉手段はファスナ 3 に限らず、先端開口部 1 4 b を開閉することができる適宜な構成を採用すればよい。

【0032】

また、手袋本体 1 1 の掌被覆部 1 5 の適当な部位にも他のカイロ収容部を設け、指先と一緒に掌や手の甲を温めるようにしてもよい。

【0033】

また、本発明は、内部にカイロを収容可能なカイロ収容部を備え、手袋本体に手を入れた際に指先部分となる当該手袋本体の先端部にカイロ収容部が設けられるとともに、このカイロ収容部が手袋本体の先端に設けられた開閉手段により当該手袋本体の先端を通じて開閉自在に設けられた手袋であればよいから、上記の実施の形態のようにミトンタイプに限らず、5 本の指すべてを一纏まりに被覆する一つの被覆部だけを設けた構成のものであってもよい。

40

【産業上の利用可能性】

【0034】

この手袋は、ゴルフやバケットボール以外のスポーツの他、通勤や通学時、登山や釣り、或いは障害者の防寒具などとして広く全般に利用することができる。

【図面の簡単な説明】

50

【0035】

【図1】本発明の手袋を示す斜視図である。

【図2】同じく手袋を示す断面図である。

【図3】先端を開放させた状態の手袋を示す斜視図である。

【図4】図2に示す手袋の使用状態を示し、(a)は指先部分の腹側をカイロ収納部に当てた状態を示す断面図、(b)は指先部分の爪側をカイロ収容部に当てた状態を示す断面図である。

【図5】本発明の他の実施の形態に係る手袋を示し、(a)は指先部分をカイロ収容部の第1室と第2室との間に差し入れた状態を示す断面図、(b)は指先部分の腹側をカイロ収納部の第1室に当てた状態を示す断面図、(c)は指先部分の爪側をカイロ収容部の第2室に当てた状態を示す断面図である。

10

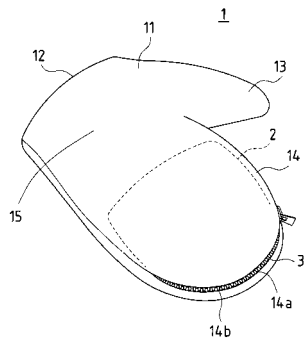
【符号の説明】

【0036】

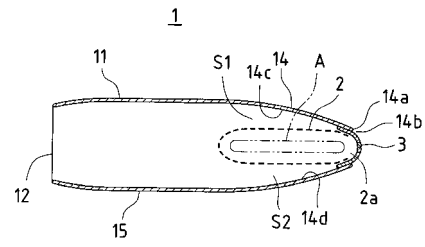
- 1 手袋
- 1 1 手袋本体
- 1 2 基端開口部
- 1 3 親指被覆部
- 1 4 四指被覆部
- 1 4 a 先端縁部
- 1 4 b 先端開口部
- 1 5 掌被覆部
- 2 カイロ収容部
- 2 a カイロ挿入口
- 2 5 第1室
- 2 6 第2室
- 3 ファスナ（開閉手段）
- S 1, S 2, S 5, S 6, S 7 空間

20

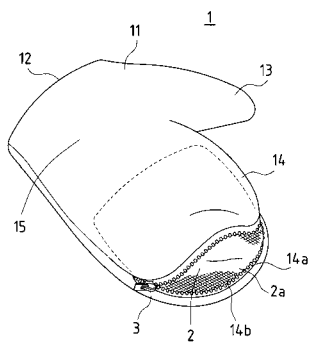
【 図 1 】



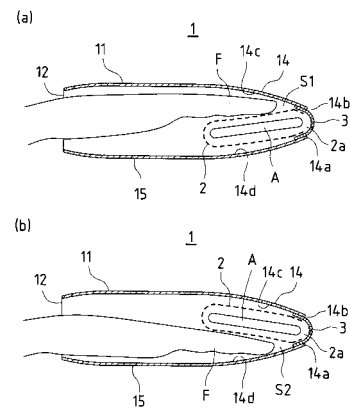
【 図 2 】



【 図 3 】



【图 4】



【図 5】

